

学校生活と  
子どもの権利に関する  
教員向けアンケート  
調査結果



# 【概要】 学校生活と子どもの権利に関する教員向けアンケート調査

- 調査目的**
- ・教員を対象に、子どもの権利の認知度・理解度と権利教育の実施状況や課題点を明らかにする。
  - ・本調査結果をもとに、学校での子どもの権利教育の実施を求める政策提言と教員・学校関係者を中心とした子どもの権利の社会啓発、セーブ・ザ・チルドレンの教材作成を実施する。

調査対象	小学校、中学校、高等学校、高等専門学校、特別支援学校、外国人学校の教員
回収期間	2022年3月11日～3月14日
有効回答数	468人
調査地域	47都道府県
調査方法	インターネット調査ツール「QiQUMO」提携先会員の教員による任意回答
実施主体	公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
実施協力	株式会社クロス・マーケティング

※回答結果の構成比は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とはなりません。

# 【質問一覧】 学校生活と子どもの権利に関する教員向けアンケート調査

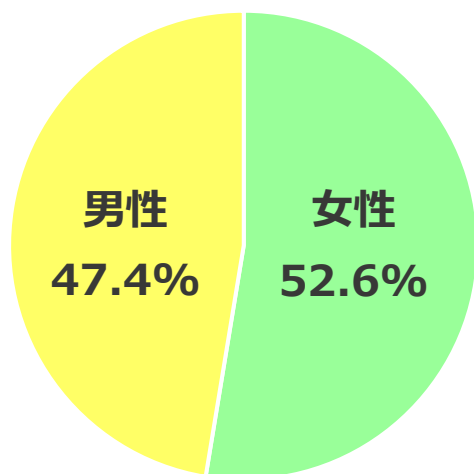
<全6問>

1. 子どもの権利を知っていますか？（単一選択）【子どもの権利の認知度】
2. 子どもの権利としてふさわしいと思う内容をすべて選んでください（複数選択）【子どもの権利の理解度】
3. あなたは、学校生活において子どもの権利を尊重していますか？（単一選択）【学校における子どもの権利の尊重】
4. 普段、学校で子どもと接する際にどのようなことを心がけていますか？（単一選択）  
【学校における子どもの権利の尊重（心がけていること）】
5. 直近の1年間で、子どもたちに子どもの権利を伝えるために、あなたの学級ではどのような取り組みをしていますか？  
（複数選択と自由記述）【子どもの権利教育：取り組み状況】
6. 子どもの権利に関する授業を実施するにあたって、どのような難しさを感じていますか？  
（複数選択と自由記述）【子どもの権利教育：課題】

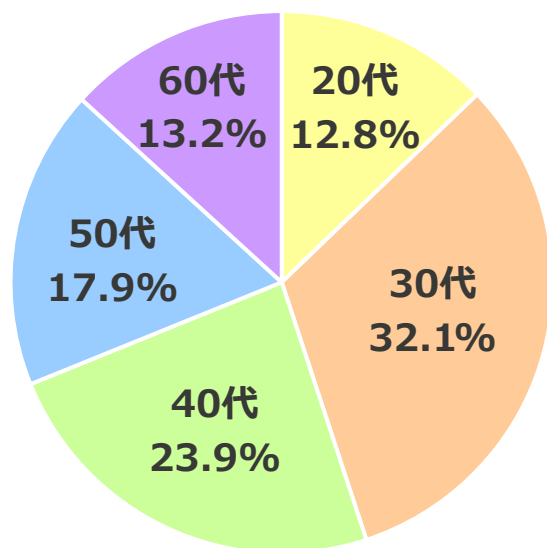
※属性を除く質問

# 【回答者の属性－1】 学校生活と子どもの権利に関する教員向けアンケート調査

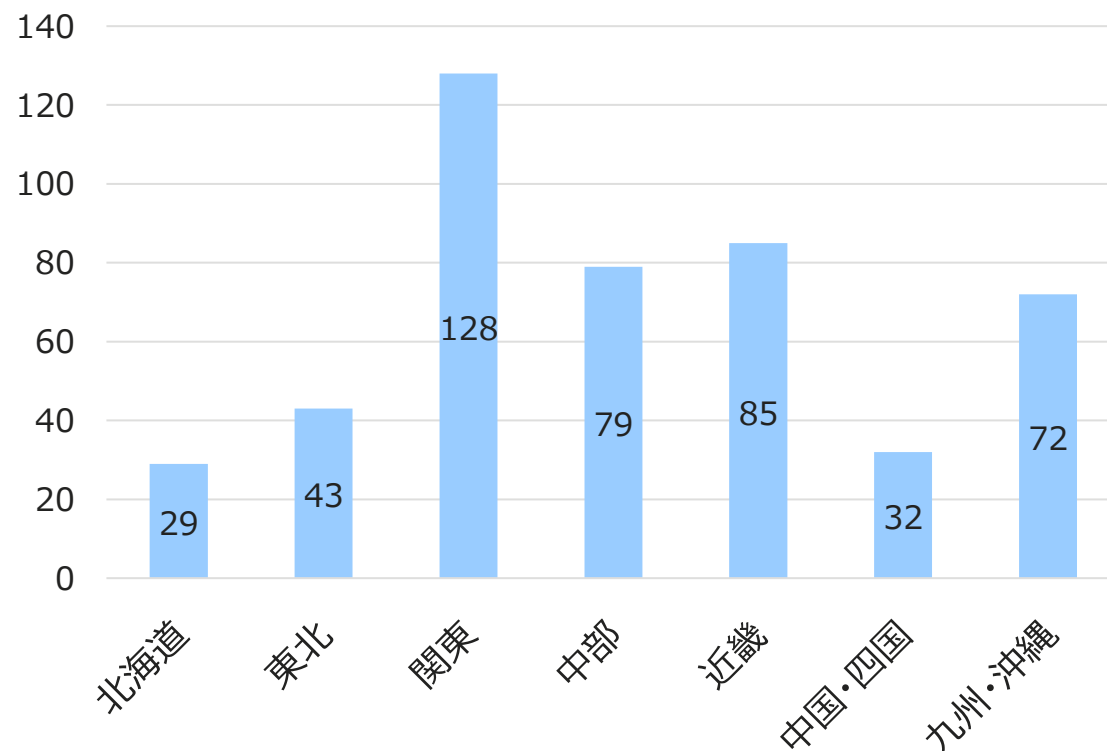
## 性別



## 年齢層



## 居住地別（地方別）の回答者数



※回答者が多かった都道府県 上位3県：  
東京都（36人）、神奈川県（35人）、愛知県（32人）

## 【回答者の属性－ 2】 学校生活と子どもの権利に関する教員向けアンケート調査

Q 現在働いている学校の種別 (単一選択、n=468)		
小学校	178	38.0%
高等学校	128	27.4%
中学校	101	21.6%
特別支援学校	52	11.1%
高等専門学校	8	1.7%
外国人学校 ※	1	0.2%
合計	468	

※インターナショナルスクール、民族学校など

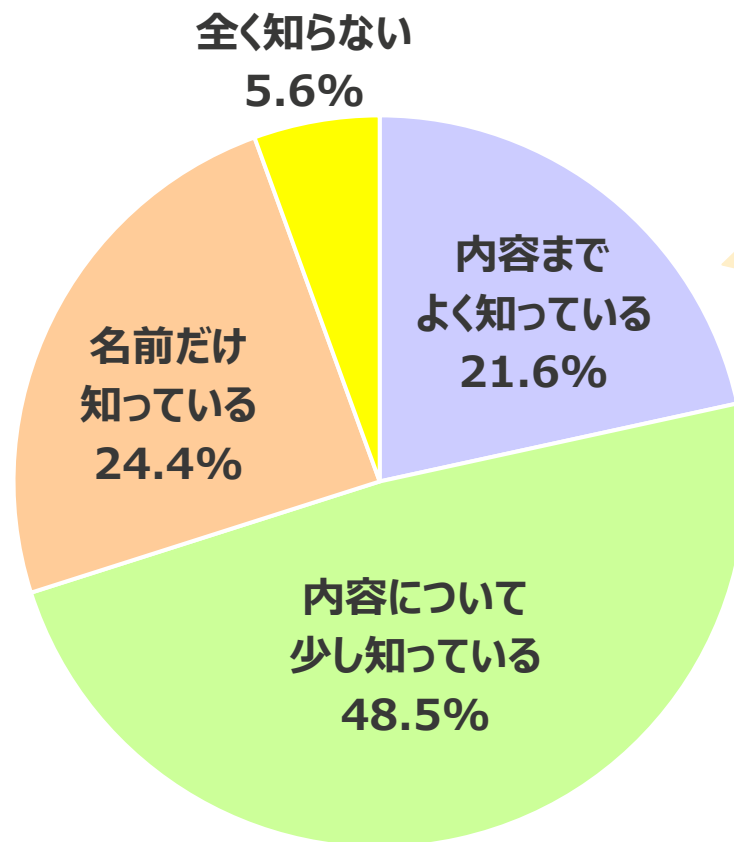
Q 教員としての勤務年数 (単一選択、n=468)		
25年以上	143	30.6%
15年以上～25年未満	101	21.6%
10年以上～15年未満	88	18.8%
5年以上～10年未満	84	17.9%
5年未満	52	11.1%
合計	468	

Q 現在勤務している学校での職位や係 (単一選択、n=468)		
学校長・副校長	16	3.4%
教頭	10	2.1%
主幹教諭	20	4.2%
指導教諭	10	2.1%
教諭	394	83.7%
生徒指導主任・生徒指導主事	7	1.5%
常勤講師	13	2.8%
再任用教諭	1	0.2%
合計	471	

※生徒指導主任・指導主事は係であるため、他役職と複数選択している。  
そのため、回答合計が468人を超えている。

## 【調査結果】 1. 教員による子どもの権利の認知度

Q 子どもの権利を知っていますか？（単一選択、n=468）

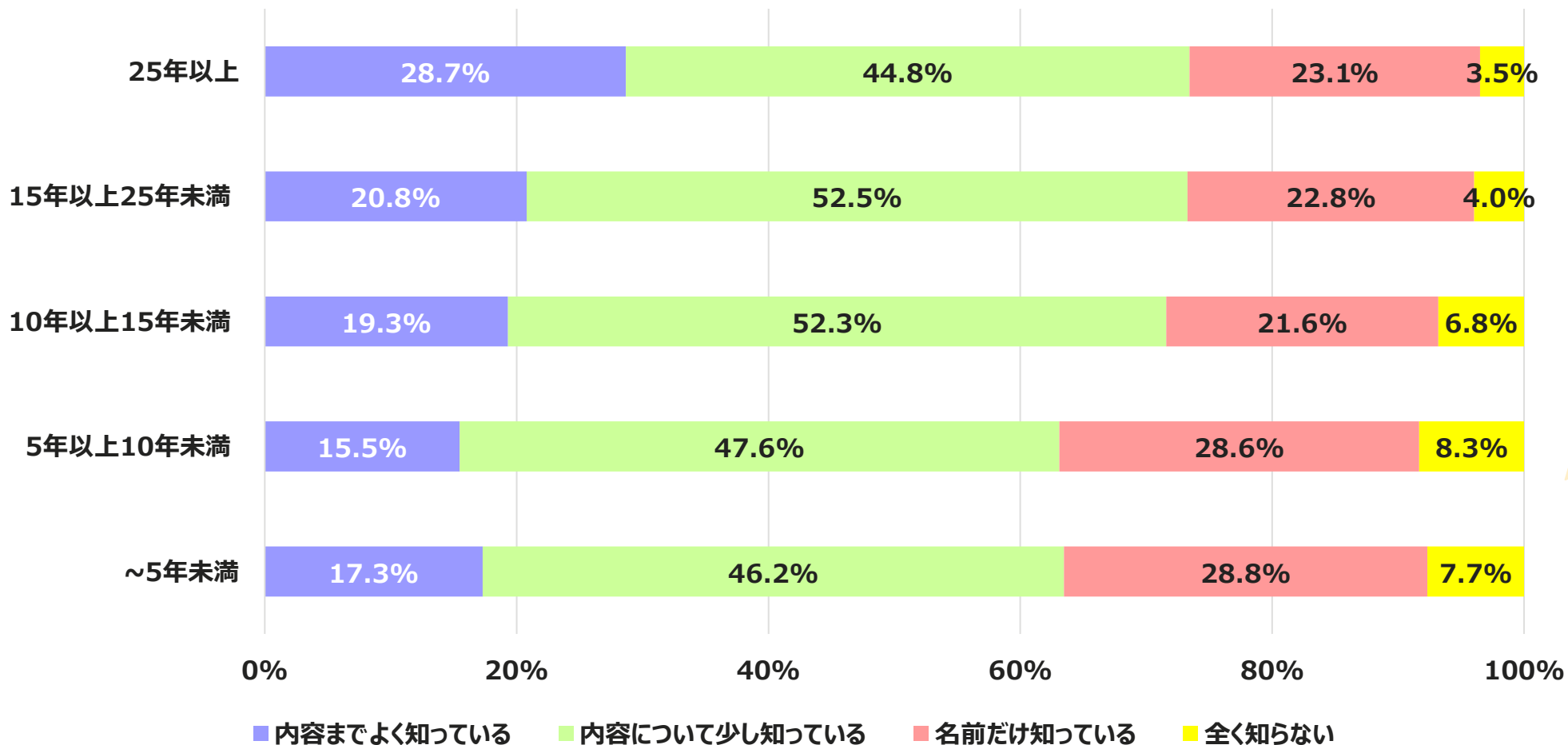


「全く知らない」  
「名前だけ知っている」と  
答えた教員は、  
あわせて 30.0%

子どもの権利を「内容までよく知っている」  
教員は、約 5 人に 1 人

## 【調査結果】 1 - 2. 教員による子どもの権利の認知度×勤務年数

Q 子どもの権利を知っていますか？ <教員の勤務年数ごと> (n=468)



教員としての勤務年数が短い教員の方が、子どもの権利を「名前だけ知っている」、「全く知らない」と回答する割合が多かった

## 2. 教員による子どもの権利の理解度

Q 子どもの権利として ふさわしいと思う内容をすべて選んでください（複数選択、n=468）

	内容	選択した人の割合
1	すべての子どもは、大人と同じように1人の人間であり人権を持っている。	88.2%
2	子どもは義務や責任を果たすことで権利を行使することができる。 <small>※子どもの権利として、ふさわしくない内容</small>	27.6%
3	子どもは自分と関わりあるすべての事について意見を表明でき、その意見は正当に重視される。	64.1%
4	子どもは家庭でも学校でもどのような場所においても、あらゆる暴力から守られる。	81.2%
5	障害のある子どもを含むすべての子どもは、社会に積極的に参加し、インクルーシブな教育を受けられる。	73.3%
6	子どもは必要な医療・保健サービスや社会保障制度を利用し、十分な生活を送ることができる。	70.5%
7	子どもは成長途上のため、子どもに関する事はいかなる場合も大人が子どもに代わり決めるよう推奨される。 <small>※子どもの権利として、ふさわしくない内容</small>	19.8%
8	子どもは遊んだり、休んだりする権利を持っている。	59.8%
9	すべての子どもは性別や人種の違いで差別されず、同じ権利を持っている。	79.7%

■ 子どもの権利に含まれるが、  
選択した教員が少なかった上位3点

「遊ぶ、休む権利」  
→約4割は 選択せず

「意見を聴かれる権利」  
→約4割弱は 選択せず

「医療・保健サービスや  
社会保障にアクセスする権利」  
→約3割は 選択せず

■ 子どもの権利に含まれない内容

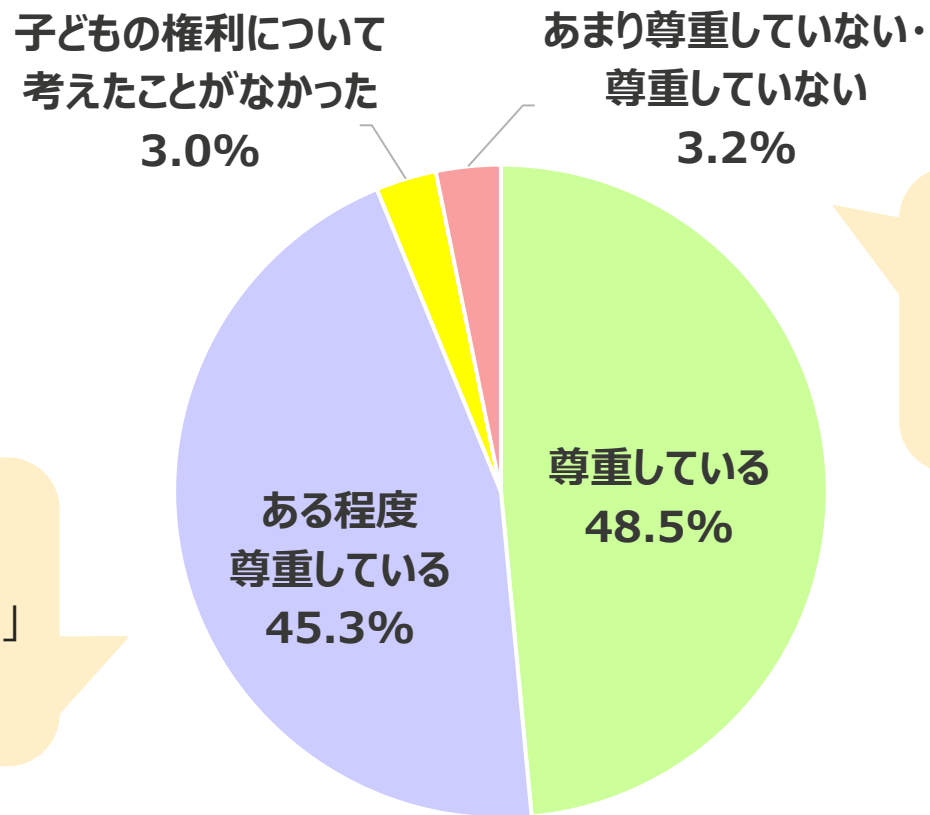
「子どもは義務や責任を果たすことで  
権利を行使することができる」  
→約3割が 選択

「いかなる場合も大人が子どもに  
代わって決めるよう推奨される」  
→約2割が 選択



### 3. 教員による、学校における子どもの権利の尊重

Q あなたは、学校生活において子どもの権利を尊重していますか？（単一選択、n=468）

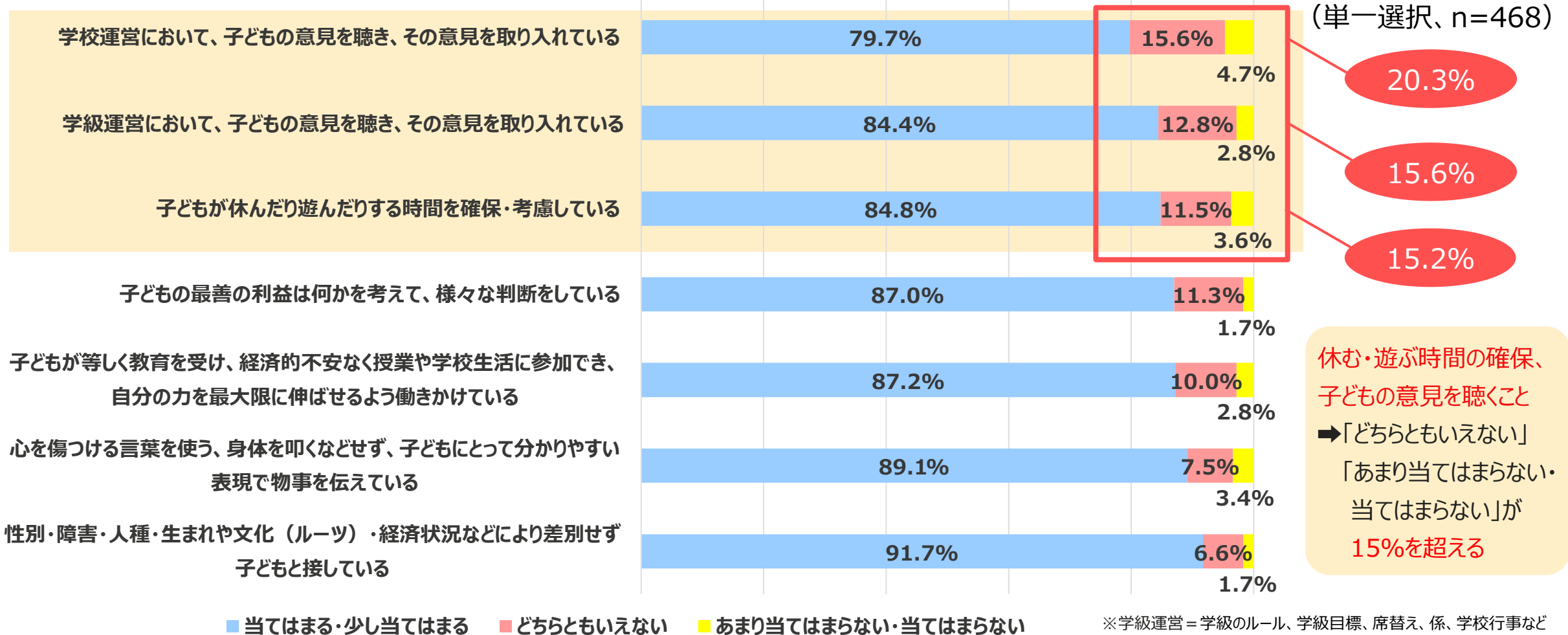


「尊重している」と約半数の教員が回答した一方、「ある程度尊重している」と答えた教員も 半数近い

「子どもの権利について考えたことがなかった」  
「あまり尊重していない・尊重していない」  
あわせて 6.2%

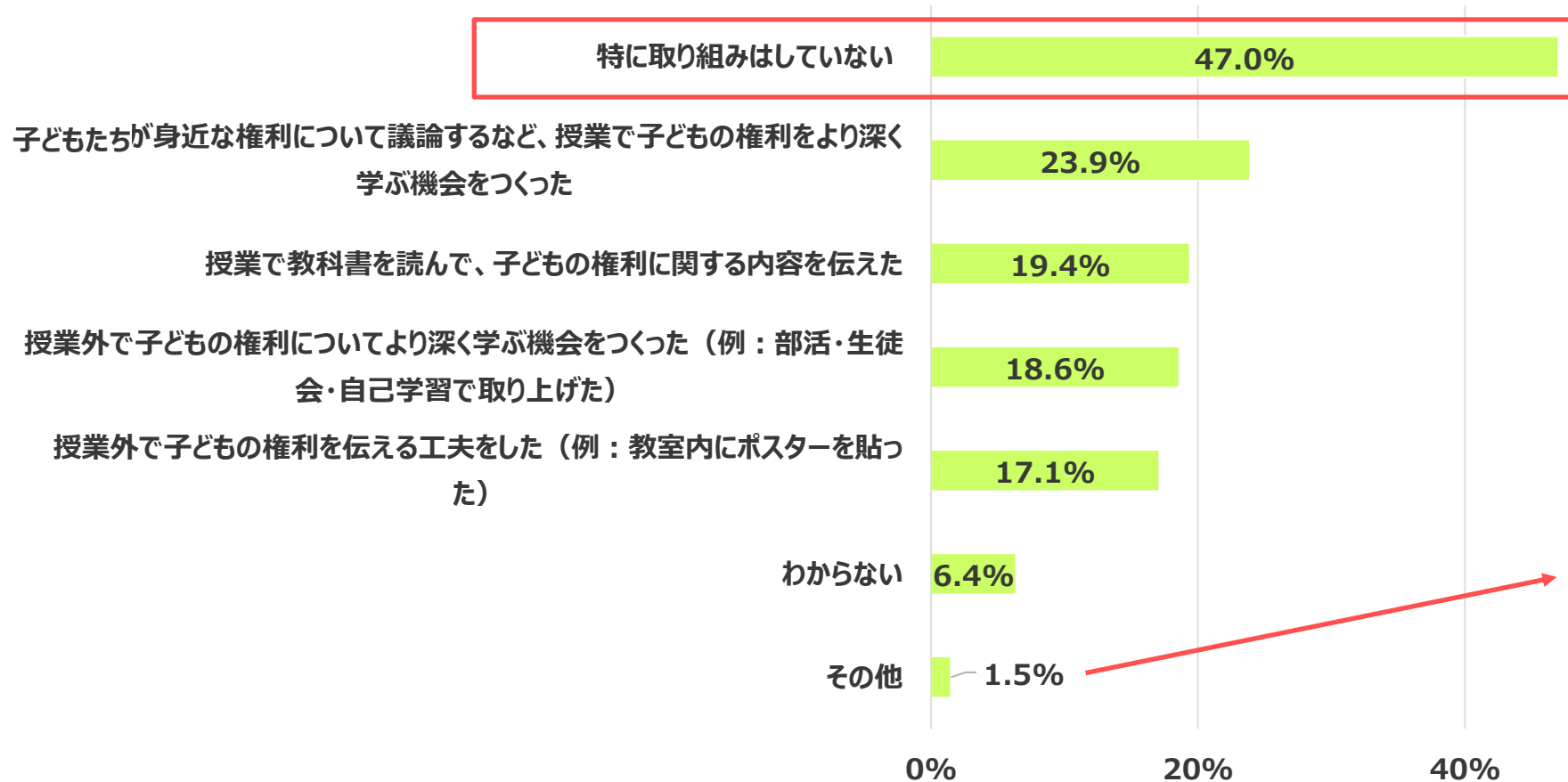
## 4. 教員による、学校における子どもの権利の尊重（心がけていること）

Q 普段、学校で子どもと接する際にどのようなことを心がけていますか？ 以下の各項目についてお答えください



## 5. 学校における子どもの権利教育：取り組み状況

Q 直近の1年間で、子どもたちに子どもの権利を伝えるために、あなたの学級ではどのような取り組みをしていますか？（複数選択、n=468）



「特に取り組みはしていない」と答えた教員は、約半数

### ■ その他の取り組み例（自由記述より）

「人権教室、全校朝会の講話」

（小学校教員）

「子ども権利条約〇×クイズを作って、子どもたちが話しあう時間をつくった」

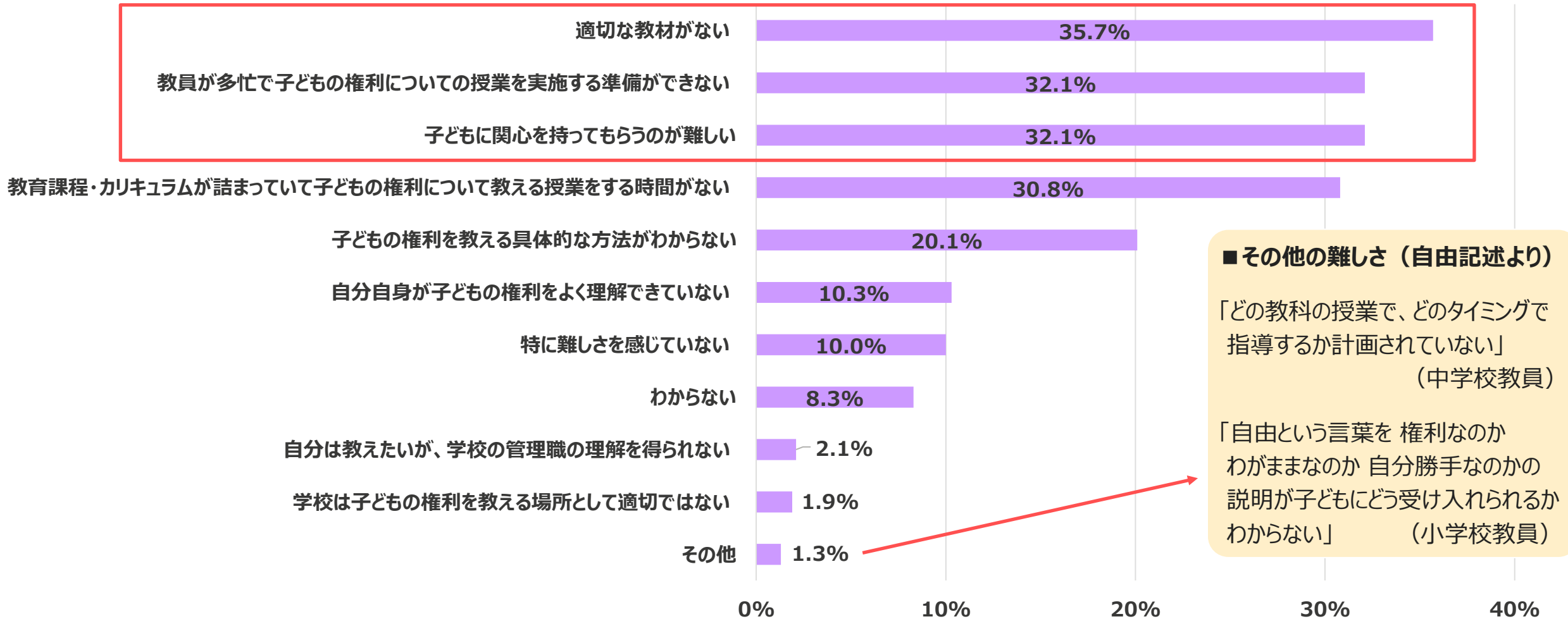
（中学校教員）

「都度説明をした。〇〇をする権利はみんなにあるよ、など」

（小学校教員）

## 6. 学校における子どもの権利教育：課題

Q 子どもの権利に関する授業を実施するにあたって、どのような難しさを感じていますか？（複数選択、n=468）



■ その他の難しさ（自由記述より）

「どの教科の授業で、どのタイミングで指導するか計画されていない」（中学校教員）

「自由という言葉が権利なのか わがままなのか 自分勝手なのかの説明が子どもにどう受け入れられるかわからない」（小学校教員）

# 【まとめ】 学校生活と子どもの権利に関する 教員向けアンケート調査

## 子どもの権利の認知度

- ➡子どもの権利について「内容までよく知っている」教員は、**約5人に1人**（21.6%）。
- ➡「全く知らない」、「名前だけ知っている」教員は、合わせて**3割**（30.0%）。勤務年数の短い教員に多い傾向。

## 子どもの権利の理解度

- ➡子どもには「遊ぶ・休む権利」、「意見を聴かれる権利」があると答えた教員は、**6割前後**に留まる（59.8%、64.1%）。
- ➡「子どもは義務や責任を果たすことで権利を行使することができる」と回答した教員は、**4人に1人**を超える（27.6%）。

## 学校における子どもの権利の尊重

- ➡基本的人権である子どもの権利について、「ある程度尊重している」（＝尊重しているとは断言できない）と答えた教員が**半数近い**（45.3%）。
- ➡「子どもの権利について考えたことがなかった」、「あまり尊重していない・尊重していない」と回答した教員は、あわせて**6.2%**。

## 学校における子どもの権利の尊重（心がけていること）

- ➡学校・学級運営において子どもの意見を聴くこと、休む・遊ぶ時間を確保することについて、「どちらともいえない」、「あまり当てはまらない・当てはまらない」の合計が**15%を超える**。  
《考察》意見を聴かれる権利と休む・遊ぶ権利は、教員による**理解度も、学校での尊重度合いも低い**といえる。

## 子どもの権利教育：取り組み状況

- ➡直近1年間で「特に何もしていない」教員は、**約半数**（47.0%）。

## 子どもの権利教育：課題

- ➡教員による課題認識の**上位3つ**は、「適切な教材がない」（35.7%）、「教員が多忙で子どもの権利について授業を実施する準備ができない」（32.1%）、「子どもに関心を持ってもらうのが難しい」（32.1%）。  
《考察》**教員の負担を増やすことなく、子どもが関心を持って取り組める教材の必要性が示唆される**。